

平成23年度 第1回公民館運営審議会 会議概要

- 1 審議会名 公民館運営審議会
- 2 日 時 平成23年5月30日 午前9時30分から午前11時20分まで
- 3 会 場 明科総合支所 大会議室
- 4 出席者 神谷会長、降旗副会長、内田委員、下里委員、山田委員、大倉委員、青柳委員、平倉委員、小林委員、宮川委員、手塚委員、吉澤委員
- 5 市側出席者 丸山教育長、小松教育次長、赤羽社会教育課長、内田中央公民館長、内川豊科公民館長、中村穂高公民館長、千國三郷公民館長、浅見明科公民館長、青柳中央公民館主事、山田豊科公民館主事、平川穂高公民館主事、高嶋三郷公民館主事、丸山堀金公民館主事、請地明科公民館主事、臼井中央公民館主事、関中央公民館主事
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 平成23年6月21日

協 議 事 項 等

- 1 開 会
- 2 あいさつ  
神谷会長  
丸山教育長  
(異動職員のみ自己紹介)
- 3 協議事項
- 1) 平成23年度公民館事業計画について
- 2) 第5回安曇野市公民館大会について
- 3) 安曇野市公民館報について
- 4) 安曇野文化について
- 5) その他
- 6 閉 会

【平成23年度公民館事業計画について】

《各公民館長より説明》

(委員)

明科公民館の事業について柏寿学級の具体的な内容について教えてほしい。

(公民館長)

明科では30年以上伝統のある取り組みで、60歳以上の健康な方を対象に募集をしている。毎回の募集ではなく会員になってもらいその方に5回なら5回を参加してもらっている。1回に健康づくりや時局の問題についてや時にはお楽しみを入れたり、1回ごとに3から4講座を計画し体験してもらっている。柱としては健康づくり仲間作り、生きがいくりの3本を柱に掲げてやっている。

(委員)

わかりました。ただ内容が漠然としているが、その日に集まってその時に何かを計画しているのか。

(公民館長)

わかりやくいえば、老人大学に準じたものと考えてもらえればと思う。

(会長)

私のほうでひとついいか、趣味がたくさんある中で、中央公民館で囲碁、将棋大会を取り上げた理由を聞かせてほしい。

(事務局)

22年度に合併5周年ということで行ったものであるが、スポーツの関係では市民スポーツ祭が全市的に行われたがスポーツ以外で全市的にできる文化的事業を考えたところ、他にもあるかもしれないが小学生から高齢者まで比較的やっている方が多く、学校でも囲碁将棋クラブなどがあるということを知りつけ、幅広い年齢層が参加できるのではないかと行っただけで。昨年度については両方あわせて100名くらいの参加があった。囲碁の場合については特殊な対戦方法があり、それにあわせて参加者を募った関係で参加者調整をした経過があったが、その辺の調整をすればより多くの参加者が見込めるのではないかなと思う。

(委員)

関連の質問で、そもそも中央公民館を何の目的で作られたのか。中央公民館のコンセプトは何か。中央公民館というのは、他の公民館の統括の部分であると思う。統括するところで趣味の講座をやる必要があるかどうかクエスチョンマークをつけたいと思うがいかがか。

(事務局)

中央公民館は統括するというので合併当時作られた。ご存知のように中央公民館の建物がなくて社会教育課の職員が中央公民館の事務を行っている。したがって中央公民館の存在がはっきりしないということも一般の市民の方も思われていると思う。合併してからは今まで県、中信地区運営協議会との調整を行ってきた。ここにきて、中央公民館でやっていく必要があるかどうかについてはおっしゃるとおりであると思うが、公民館の形というのが庁舎の建設に伴ってかわってくるのが考えられる。そうすると地域の公民館での趣味講座ができるかどうか、中央に集約をして全市的な趣味講座も中央公民館でやっていくのではということが考えられている。人員がそれぞれの公民館でどうなってくるかわからない、それぞれの地域でやっていた趣味的な講座をこれからは全市的にやっという考え方で取り組んでいかなくてはならないという公民館のあり方というのがここ1～2年かわってきたというのが現状である。

(委員)

安曇野市としては、公民館、社会教育はひとつにしようという考えか。分館は作らないという考えか。

(事務局)

分館は置いておくと、それぞれの分館においては、今公民館でいわれているのはそれぞれの地域課題に対する学習というのが非常にいわれている。そういった地域に根ざした学習、課題に対する学習というのをそれぞれの分館で行っていく。それ以外の趣味的なものというのはできるだけ、たとえば、それぞれの公民館で講座等をやっており、全市的にも呼びかけてやっているが他の地域の人が参加しにくいということもある。そういった地域限定というものをとっばらい、全市的に広めていこうということで考えている。

(委員)

見えないのは、安曇野市の公民館活動、社会教育をどうしようというひとつの流れが見えない。まず、各々でやっているのは地域課題を見据えて要求課題を見据えて講座を組んでいるのは非常によくみえて、各地域で特徴ある講座を組んでいるのは良く見えるが、でも中央公民館、社会教育で安曇野市をどうしようかというのが、1年間関わってきたがわからないし、みえてこない。結局分館の館長や主事さんたちも、これから安曇野市をどうしていこうか、安曇野市の地域課題がなんなのかみえてきていないのが実際ではないか。社会教育課ではどんな考え方なのか見えてこない。

(課長)

今、委員が言われたこと十分理解はしている。ただ、公民館条例にもあるが中央公民館のコンセプトであるが中央公民館は分館を統括するとともに、全市的な公民館事業を行うこととあり、このコンセプト自体は変えていない。やはり、市民の皆さんに学習の場を提供したり、発表する場をつくっていかなくてはならないと思っている。そういった中全市的に作っていきたいというのが私たちの夢でもあり、なんとかそういった方向にもっていきたいという思いもある。そういった中、現実には旧町村の地域それぞれやってきたものを継続しているのが現状であるが、これからは、地域の課題等について、やはり大きなもの全市的に講座学習する機会をつくっていかなくてはいけないと考えているのでまだそこまですべていっていないということでご理解願いたい。

(委員)

今のものに関連して地域審議会で先程のような話が話題になったが、早いうちに中央公民館の方針をきちんとだして、市の一体感が公民館をとおしてあってもいいのではないかな。街づくりをどうしていくかを地域だけではなく公民館のほうから方針をきちんと出してほしい。

(会長)

中央公民館に対するそれらの意見、要望というのは我々委員の責任ある立場で申し上げられると思う。

(委員)

そのひとつの方針を作る場面、そのために我々がいるのである。事務局だけで決めるのではなく、そういう問題を我々に投げかけてもらいたい。そのために平日にも関わらず集まってきている。どうしようかという問いかけがない、何のために会議にきているのか、そのための審議会であると思う。安曇野市のこれからの公民館教育をどうするかを問いかけてもらえばそれなりの答申をだせる。そこで事務局でようやくこれで行きますと決めてもらえばいいと思う。なぜ今までそういう問いかけがなかったのかクエスチョンマークをつけたい。

(会長)

ようやくこの時期になって具体的な委員としての意見が出始めきた。だいぶ遅れてしまったが、ここまでたどりつくには5年かかってしまった。その点を留意しながら事務局でも考えていただきたい。私の要望も踏まえてお願いしたい。

(課長)

大変ありがとうございます。貴重な意見をいただいた。私たちも内部できちんと検討させていただいて皆様方にご相談申し上げていきたいと思う。

(次長)

4月に異動してきて、おっしやることを非常に痛感している。他にも文化課も所管しているが、まず今までの流れをみると公民館報というのが、1地域で出ていたものが中央公民館で全体的に出すということでひとつまとまりが始まってきている、あとは市長が申し上げた安曇野検定があるが、これも全市的なものであるので中央公民館で何かできるのではないかと模索しながら今後の計画ができると思う。いくつかの題材が出てきている状況である。そういった面でいうと条例の中にある統括というのは皆さんご存知のとおりでいいかと思うが、中央公民館としての全市的な公民館事業というのは規定にあるのでこれをどうするか、まあ始まったばかりかなと思う。これからいろんな面を見て計画を、たたき台となるものをつくって皆さんにご協議いただきたいと思う。

(委員)

安曇野市になる前に豊科町の公民館長を6年やっていた。当時、南安曇郡公民館運営協議会が組織されており、各公民館長が集まり、郡全体の方向性を協議しながらやってきた。その時も郡の一体感を大事にしようという話はよくしていた。今回、公民館報を一本化をしたとあり、一本化していくということを特段否定してわけではないが、同時に公民館というものを一本化するということを進めるよりも、地域ごとが違っていても問題はないと思う。それぞれの地域に残った昔からのものが消えてしまうことは、公民館の精神からいってあまり好ましいことではないと思う。中央公民館ができて一本化していく方向も大事であると思うが、地域が独特の活動をしていったほうが公民館的であると思う。これから審議会で審議していく上で、ぜひ一本化でなくてそれぞれの地区を大事にしていくこと、そんなことを感じる。

(会長)

これからの審議会のあり方が問われる上で大事な話であると思うが、そのことに触れてもう一つ私のほうから残念だったことがある。せっかく公民館報、安曇野文化を発行すると決まったがなぜ前回の審議会の際に諮問されなかったのか、そうすればいろんな意見が出てうまく立派なものが出ていったのではないかと思う。我々に承認を願うだけの会議になっていたのが非常に不満である。これから中央公民館の事業が増えてくると思うが、これからは必ずそのような計画がある場合は、審議会に意見を聞きながら決定の段階にもっていったほうが皆さんの意見がスムーズに吸い上げられるのではないかと思うのでそのようにしてもらいたいと思う。

(委員)

一本化して大きくなればなるほど公民館報も目を通さなくなってしまう人が出てくる、身近なものであればもっと読む人も増えてくる。どんどんそのような方向に公民館が進んでいくことに対してちょっと危惧している。隣近所のことが出てくるのが身近になるものであると思う。

(次長)

臥雲辰致についてほとんど知らなかった。これは堀金出身の方は常識であると思うが、それ以外の方は知らない。それが現実であると思う。あまりにも地域で常識的すぎるのが他の地域では知られていない。これをなんとか全市的に知っていただくことができないかと考えている。そういったところから、今の課題が解決できるかと考えている。次の段階においては、あまりにも自分のところでは常識的すぎることを知ってもらう方法のアイデアをいただければと思う。知っていただく情報を発信することも公民館の役割かと思う。

(副会長)

先程でた意見について十分わかるが、安曇野市になったため一本化した公民館報は毎月とはいわないが、発行することは大事であると思う。知らないこと、他の地域のことを知れる、わかることも大事である。ただ、それぞれの地域の分館が館報を出してはいけないことはない、その地域は地域で館報を出していただいてもいいと思う。それができるかどうかは別として。館報を一本化したことが決していけないことでなくて、市で一本化したものを出すことも大事、地域の分館が出すことも大事、もっといえば地区の館がそれぞれ館報を出してあげればもっと地域のことが知れる。そういう方向にみんながなれば、全体のことも地域のことも見えてくると考えないといけないと思う。

#### 【第5回安曇野市公民館大会について】

《事務局より説明》今後の大会の進め方等について

(委員)

私を感じたことは、せっかく大勢の方が集まるので公民館活動のエピソードというかそのようなものを報告したり、今年度の事業計画のねらいというようなことを発表する機会を設ければもっとよくなるのではないかな。

(委員)

中央公民館は各分館を総括した中で、全体を集めて何かをやる大会みたいなものはひとつあったほうがいいと思う。公民館大会もそうだと思うが、分館にまかせるだけではなくて全体を網羅する行事も必要である。

#### 【安曇野市公民館報について】

《事務局より説明》今後の内容について

(委員)

編集はどなたがやるのか。市民を編集委員として考えられることはないか。

(事務局)

次年度以降についてはあるかもしれないが、今年度については編集委員について予算化されていないので難しい。

(委員)

今までのものがなくなって非常に寂しい思いをしている。楽しく読ませてもらっていた。1面だけでも地区版にしたらどうか。残りは全市のことを載せるという考え方をしたらおもしろいのではないかなと思う。全市版にはある程度安曇野市としての課題提起がほしい、これではただのお知らせ版であると思う。公民館の事業としては課題提起が大事である。そういうことが公民館の主目的ではないか。それとともに編集委員を作ってもらいたいし、編集委員にまかせる方法がいいと思う。ぜひ来年にむけてお願いしたい。

(課長)

合併協議の際に話し合いがもたれていた。新市になったら作っていこうということになっていた。それを23年度からは一本化して出していこうとなり、ちょうど切り替えの時でいろんなことが、しっかり体制もできていない中で出発しているの、1年かけて見直し等を行っていければと思うのでよろしくお願いしたい。

(委員)

館報は何のために出すのか、誰に出すのか、ここを考えてもらえれば当然見えてくることであると思う。

(次長)

編集委員というのは、当然必要であると思う。合併協議会の中で新市になったら館報を出そうというのが議論されていながらずるずるとこまできてしまった。そういうなかでドタバタしてしまった。紙面の作り方は非常に大事であると思う。今意見をいただいたが、他にもアイデアをいただきそれを参考に協議をしていきたい。我々事務局では、5地区を均等に扱う考え方があったためこのような形になってしまったことはあるが、市として一体化していけばやり方もいろいろあると思うし、色々な意見をいただくことが核となり、そのことによって中央公民館としての方針もできあがってくると思うので他の委員からも意見をいただければと思う。

(委員)

安曇野市公民館報が出るということで他の地域はやめてほしいとってしまったが。そうではないのか。

(課長)

合併する前は、教育のたよりだとか公民館報であったりとそれぞれの地区で出していたようである。それを合併するにあたって、市としてひとつのものを作っていこうということになり、それに向かって取り組んできたが、ずるずると今まで出しもせずに来てしまった。ここで何とか市としての館報を出していこうということで取り組みが始まったということである。いろいろとご提案をいただいているが、今後検討し、解決していくことはしていきたいと思う。地域で作っていたものを市としてひとつにするということで、予算を組み替えていることを理解していただければと思う。

(委員)

共通理解としては市の公民館報は出していくが地域は地域でだしてもいいということか。

(課長)

地区公民館単位では出しているところもあるが。各分館で出すということであると思うが、予算的なことをクリアできれば各地域でもできるのではないかと思う。

(委員)

市の館報については大いに期待しているが、編集委員を持たずに発刊することはいいことがどうか。予算もあると思うが、その辺は検討してもらいたいと思う。こういうものを発行することによって、地域を越えたものが何年かしていくうちにどんどん進んでいくことを期待している。毎月出していたものが市になって5から6回でいいものかどうか、その辺の意見をきかせてほしい。

(課長)

23年度についてはその回数と説明させていただいたが、次年度以降については、今後十分研究しながら回数を増やすことを検討しているのでよろしくお願ひしたい。

#### 【安曇野文化について】

《事務局より説明》(発行するにあたり購読をお願いしたい)

【終了】

